

11月の支出(図書、備品、慶弔、飲食除く)

94,238円

情報公開の第一歩 政治資金を見えるようにします。

印刷代(月刊武松印刷代)	23,388円
交通費(駐車場、燃料代、高速代)	9,695円
通信費(折込、携帯電話代)	61,155円
支出計 22/11/1~22/12/4	94,238円

市政を考える

月刊武松

発行日
22/12/5

第207号

20300部発行

たけまつ ただし
頒布責任者：武松 忠(市議会議員)

小田原市の産業について

製造業の大幅減 工業製品出荷額は45.3%減

前号の人口に引き続き、今回は小田原市の産業についてまとめます。

■製造業就業者数の大幅減

図1に産業別就業者数の推移を示します。これより産業3分類で見ると**第2次産業（製造業）の従業者数**が1990年の3万7411人から、2020年の1万9847人と**47%減**となっています。就業者総数は、1995年の10万5877人から、2020年の8万8058人と1万7819人の減となっており、就業者総数の減少よりも、製造業就業者数の減少が多い結果となりました。

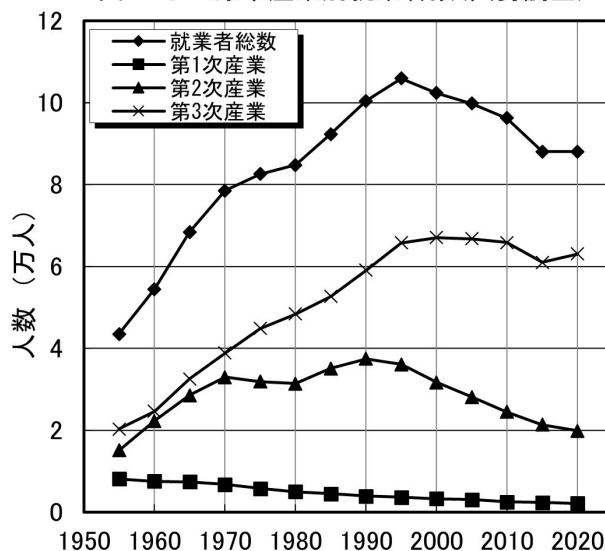
■工業製品出荷額は1兆1250億円が6149億円へ

下のグラフは、製造業のうち主である工業の従業者4人以上の製造業事業所における推移を示します。**工業製品出荷額**で見ると、1991年の1兆1250億円から、2020年の6149億円と5101億円減(**45.3%減**)、市民一人当たり換算すると271万円減となっています。撤退した主な製造業は、日本たばこ、アマダメトレックス、日立、GSユアサ、DNP等、上場企業やその関連会社でありました。**工業の従業者数**は、1991年の2万4364人から、2020年の1万0229人と**58%減**となっています。

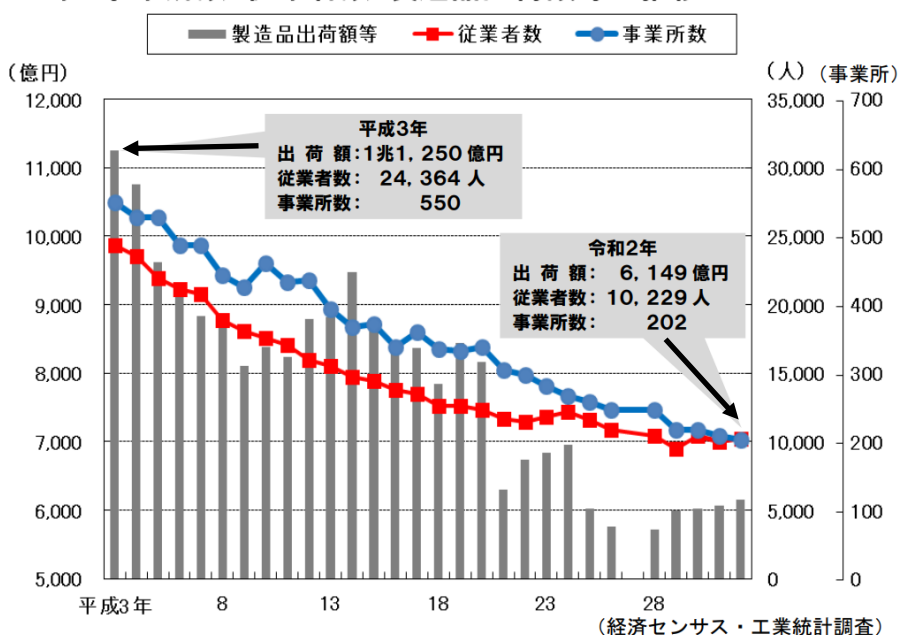
工業の事業所数は、1991年の550から、2020年の202と**63%減**となっています。上場企業等の撤退に付随して事業所数・従業者数共に比例して減少していることがわかります。

製造業の国内回帰の機運が高まっている今こそ積極的な企業誘致活動を！

図1 小田原市産業別就業者数(国勢調査)



工業 事業所数・従業者数・製造品出荷額等の推移 (7工業 表1)



※従業者4人以上の製造業事業所

商業・観光客数の推移

次に第3次産業である商業の事業所数・従業者数・年間商品販売額の推移を上図に示します。

■年間商品販売額は6936億円が4131億円に

年間商品販売額のピークは1991年の6936億円が、2016年は4131億円と**40%減**となっています。

■従業者数は17%減

従業者数は、1991年の1万8898人が、2016年は1万5742人と**17%減**となっています。

従業者の非正規雇用の割合が多いのも特徴です。

この間の神奈川県 lowest賃金は、1991年の572円が、2016年の930円となっています。今年度は1071円となっています。

■事業数は45%減

事業所数は、1991年の3382が、2016年に1848と、**45%減**となっています。

志澤、丸井、ビブレ等の撤退の一方、工業地域への大型店舗の出店も進みました。

1993年

イトーヨーカドー

1999年

シティモールクレッセ

2000年

ロビンソン百貨店

2008年

フレスポ小田原

2019年

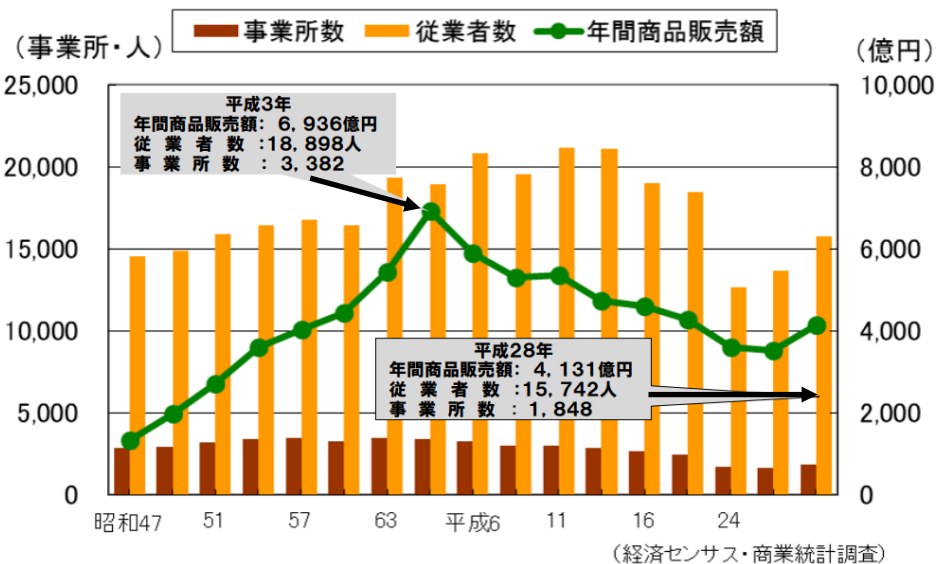
スーパービバホーム

■観光客の推移

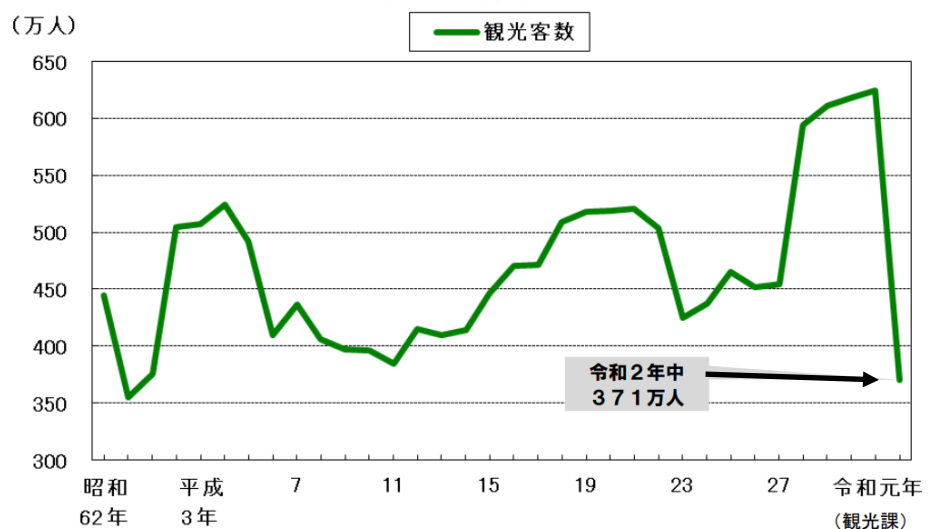
下の図に観光客数の推移を示します。2017年以降**600万人**を超えていましたが、コロナ禍により2020年は**371万人**まで減少してしまいました。

箱根のお膝元であり、観光産業が多く、災害や景気に左右されますが、小田原城改修やMINAKAのオープンなど、明るい話題が多く今後に期待です。

商業 事業所数・従業者数・年間商品販売額の推移 (8 商業 表1)



観光客数の推移 (13 観光 表1)



■お知らせ■

議会報告会は、当面の間、中止します。



公式HP
月刊武松パツナバー他



twitter
防災・感染症情報



facebook



気象庁キキクル
洪水害



▲北條五代祭りにて
来年は議会の参加なし